

平成 29 年度 卒業証書授与式

式 辞

例年にも増して寒い日が多かった冬もようやく終わり、光あふれる春が始まろうとしています。

この佳き日に、清水賢一同窓会長様を始め、ご来賓の皆様、ならびに多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、長野県篠ノ井高等学校卒業授与式を挙げていただけますことは、私ども教職員一同にとって、大変大きな慶びであります。

全日制238名、定時制9名の皆さんは、本校の全ての課程を終了し、卒業証書を授与されました。心からお祝いの言葉を申し上げます。卒業おめでとう。

また、手塩にかけて育ててこられました保護者の皆様、いろいろなご苦労があったかと存じますが、本日このような形で実を結びました。誠におめでとうございます。

思えば3年間、或いは4年間、皆さんは勉強・クラブ活動・生徒会活動に全力を傾けながら、静かに力を蓄えてきました。特に最上級生になってからは、春夏の間に一つひとつの知識を積み重ね、秋には進路実現に向け志を誓い、この冬には内に秘めた希望を大切に育てて来ました。是非このことを継続して下さい。共に泣き共に笑って過ごした級友、そして母校篠ノ井高校をいつまでも心の拠り所にして欲しいと願います。

さて、卒業後の4月からの社会について、世界情勢に目を向けてみたいと思います。

国際政治では、東アジア・環太平洋地域の脅威となっている北朝鮮の核・ミサイル開発問題が挙げられます。アメリカは北朝鮮向けの資金・物資を可能な限り遮断しようと、国際的枠組みの構築を目指しています。一方、中国は、国連軍を持ち出での議論は冷戦時代の思考だという批判を述べ、ロシアとともにこの問題で国際会議のテーブルにつくことを避けており、ますます日本、韓国の効果的な外交政策が重要になっています。

経済をめぐるのは、イギリスとEUとの、将来の関係の着地点をさぐる交渉が正念場を迎えます。交渉決裂や、イギリスの無秩序なEU離脱を懸念する世界市場の心配をよそに、イギリス国内の経済政策の対立が、先行きの不透明さを生んでいます。

こうした、「冷戦終結後の国際政治の綻び」は世界のあちこちに見られ、北朝鮮問題からは、アジアには今なお冷戦が残っているという現実が読み取れます。また、難民問題を抱えるヨーロッパ諸国は、EUという多様性を寛容する経済共同体を維持するか、保護主義の経済体制を敷くかという岐路に立っています。私たちは、二百年以上前に、「中世の綻び」から近現代の繁栄を築き上げた人類の歴史と叡智を再び検証し、新たな問題解決の道を探るべき時代に生きているのです。篠ノ井高校での学習が、皆さんの幸福の追求と世界の平和に繋がるように、この先もしっかり学び続けて下さい。

最後に、皆さんと同じ年頃の子を持つ者として願います。親は傍らにいて辛抱強く子供の成長を見守るものだと分かっていても、我が子となると、なかなか思うようには行きません。時に加熱した期待を寄せてみたり、小さな世界観の中で、小さな差異に拘ってみたりもします。その滑稽なほどの懸命さに気づく度に、私はふと我に戻り、その子の運命に対する共感と、幸せを祈る気持ちを持たなければと思い直してきました。皆さんの中には、最短距離を真っすぐ行く者もあれば、コロンブスのように遠回りを選ぶ者もいるでしょう。たどる道に違いはあっても、人は進むべき目的地に行き着くはずです。その場所が何処であれ、職業が何であれ、胸を張って大きな世界へ漕ぎ出すことを期待しています。

そして同時に、何より「あたたかな人」であってほしいと願います。この願いは、時代を超えて私たちの心の底を流れている共通の心情なのだろうと思っています。

結びに、皆さんの今後の人生に幸多かれと祈念し、式辞といたします。

平成30年3月3日

長野県篠ノ井高等学校長

岩田 学